

4 技能を総合的に育てる英語授業実践のために －技能統合的な言語活動を中核とした単元開発－

千菊 基司

新学習指導要領で導入された新科目「コミュニケーション英語Ⅰ」では、4技能を総合的に育成するために、統合的な活動が行われるよう、題材の取り扱いを考える必要がある。本小論では、英語Ⅰの検定教科書に掲載されているSF小説を題材とし、新指導要領の下で展開される「コミュニケーション英語」の授業においても妥当と考えられる単元の指導案の提案を通じ、効果的に技能を育成するための授業設計の方法と、読後に「書く」活動を展開できるような、物語の読解活動の展開方法を提案する。

1. 4技能を総合的に育てる授業展開

平成21年3月に公示された高等学校学習指導要領では、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的な育成を目指す科目として、「コミュニケーション英語Ⅰ」が創設された。その目標を達成するために、4技能を統合的に利用する活動が行われるよう、題材の取り扱いを考える必要がある。例えば、読んだ内容を踏まえ、話したり書いたりする活動を取り入れ、4技能を有機的に関連づけつつ、総合的に指導することが明確に要求されている。本小論では、その達成のために、「コミュニケーション英語Ⅰ」の内容のエにあるように、「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く」活動を柱にした、単元展開事例を紹介する。まずは、その開発のために必要な観点を概観しておきたい。

(1) 「読むこと」と「書くこと」を関連づける教材研究の視点

まず、どのように読ませるかということについて、考えておきたい。書く活動につなげるには題材の「概要や要点」の理解が第一歩であろうが、新学習指導要領解説によると「概要や要点」とは、物語などの「おおよその内容や全体的な流れ、必要不可欠な情報、(書き手の)主な考え」など、とある(p.14)。何をもち「必要不可欠」とするかは、文章のタイプにもよるが、物語の場合、書き手が物語などを通じて読者に伝えなかった、文字化されていないメッセージを抽出できること、及びそのメッセージを理解するために不可欠な情報を「あらすじ」と捉えて読めることが必要であろう。メッセージは、例えば、一般化した事実として、ことわざ的に短くまとめさせることが良いであろう。また、出来事の要点やその時々の登場人物の心情については、物語の全体像が伝わるように情報を取捨選択しながら、短くまとめさせていくことが良いであろう。

またその際、英語で要約させることによって、授業のかなりの部分を英語で運用する必然性が生まれる。生徒の表現についての不安を減らすためには、空欄補充形式のワークシートを完成させる活動にしたり、教師が作った「要約」から不要な情報を生徒に取り除かせる活動にするなど、工夫が必要であろう。どのような活動に従事させるにせよ、英語で要約、を目標にし、個々の生徒の英語による表現力も、計画的に鍛えていきたい。

(2) 目標技能を伸ばすための「帯活動」の意義

従来型の授業では、言語材料の提示から、それらを使えるようになるまでの段階を単純図式化し、インプット→インテイク→アウトプット、というように、直線的に目標へと向かっているように記述されている授業展開が多い(金谷 2012)。運用力を高めるために意図された『訳先渡し授業』での単元構成の中で、単元の前半に割り当てられた授業において、題材はインプットソースとして用いられるが、題材の日本語訳を生徒に渡して言語材料の説明を短くすることによって、後半の授業で表現力を高めるための言語活動を中心に展開するように、単元の指導案が構成されている(金谷 2012)。

技能の習得のためには、その技能の使用のために必要な言語材料の理解にとどまらず、実際に使いこなせるように練習する必要があるのだが、この技能習熟の段階において、各生徒が知識を習得し、安定してそれらを使いこなせるようになるのに必要な時間が異なることは容易に想像される。しかし、上述のような「直線的」な授業展開の中で、単元で割り当てられている短期間でそれを達成しなければならないとすれば、個人差が大きく影響し、結局は達成できない生徒が取り残される状況が想像される。

例えば、「討論」という活動を成立させるためには、「意見を英語で表現するための言語材料を知る」「その言語材料を使いこなせる」「討論のための題材を理解する」「討

論の手順を知る」「討論する」ことが最低限必要だと考えられるが、これも、「自分の意見を英語で言える」ことができて初めて成立する仮定である。

従って、英語で討論を成立させるためには、その活動を含む単元より前から、生徒の「関心・意欲・態度」を育てるような活動を行ったり、「まとまりのある英語を聞いて、内容について質問する」ことを経験させる必要がある。学力を分析的に考え、生徒に身につけさせたい目標をクリアするように「逆算的」に授業設計を考えれば当然のことである。

松浦(2011)は、学んだ知識を活用する力を高めるために「スラッシュ型の授業構成」と呼ぶ単元構成を提案している。単元の前半では言語材料の指導を中心とし、時間を追うにつれて言語活動の指導に中心を移すことが望ましいと述べている。さらに各授業時間の一部を一定部分確保し、その単元の評価活動とは切り離れた状態で、帯活動を計画的に導入すれば、技能統合的な言語活動の成立に不可欠な下位技能を、十分伸ばしておくことができると考えられる。

2. 本実践における「帯活動」のメニュー

単元で用いる題材の言語材料の指導や言語活動の指導のためのまとまった時間を考えると、毎時間のうち帯活動に利用できる時間は長くて15分、2つの異なる活動、が精一杯だと思われる。本実践では、単元の目標に直接関係あるものを1つ、直接の関係は無いが、年間計画の中で育てておきたい技能や態度に関係のあるものを1つ、合計2つの帯活動を毎時間取り入れることを基本とした。以下は、それらの活動手順の記述と実施上の留意点である。

(1) 1分間トーク

「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」ために、各学期に回数や時期を決め、通年で実施する活動。トピックを与え、ペアで一定時間、英語で自由に話させるのだが、活発な活動を引き出すための実践上の工夫が必要となる。

生徒が活動に慣れるまでは、段階を追って負荷をかけていく。第1段階(本実践では1学期)においては、1分間、とにかくたくさん英語で話すことを目標にする。ワードカウンター(西2012)を用いて、聞き手は数をカウントするだけの役割とする。話せた語数を一覧にして記録し、動機を高める。第2段階(2学期以降)では、話し手の持ち時間は変わらないが、その後に関き手に質問やコメントをさせ、双方に会話の展開についての責任を持たせる。

その他の負荷のかけ方としては、活動の後に2~3名を指名し、本人の話やペアの相手の生徒に、話の内容を「レポート」させる。当然、「話しているふり」はできなくなり、それだけで真剣さが増す。一斉授業下での活動に比べて教師のコントロールが効きにくくなるペア・グループワークでは、活動したことがどのように評価されるかをあらかじめ生徒に伝えておくことで、望ましい行動を引き出せる。

この活動を導入する場面や、負荷を強くする場面では、教師が見本を見せて、情報構成の仕方を教える。この場合は即興ではなく、準備したスピーチになってしまうので、生徒にトピックを指定させるのも一案であろう。また、この活動で用いたトピックを、ライティング活動のネタとしても再利用すれば、スピーキング活動で言えなかったことや、ペアの相手が言ったことなども利用して、生徒は表現を豊かにできる。

トピックの選定には、彼らの生活場面に関連した身近な話題や、コミュニケーション英語Iや英語表現Iの教科書の既習範囲の内容に関連した話題であれば、そこで学習した語彙知識を活用できるであろう。なお、この単元の実践においては、「My gardening experience」についてそれぞれ語らせ、題材に関連した語彙や背景知識を活性化させた。

(2) Story-telling 活動 [資料1]

行動描写のための表現を練習させることで、物語の要約活動が活性化すると考えられる。英検準2級・2級の面接カードを利用すれば、型にはまった答えをすればよいので、発想の負担が少なく済み、生徒は、必要な表現の使い方に集中できる。第一段階では、日常的な場面における人物の行動を、現在進行形で描写する準2級レベルの課題で慣らした後、日常的な場面における出来事を、ストーリー的に過去形で描写する2級レベルの課題へ移行する。

第二段階では、2級レベルの課題と同様、4コマ漫画を利用し、日常生活の場面における出来事を、ストーリー的に過去形で描写する活動なのだが、複数の登場人物がいて、立場によって同じ出来事を違うように振り返ることが容易なストーリーを用いる。資料1の題材は2009年実施の大学入試センター試験で出題されていたもので、あらすじの作成は空欄補充形式とし、出来事描写を確認した後、2人の登場人物それぞれの立場から、生徒にその出来事について振り返らせ、「日記」を作成させる。「事実」は立場によって異なるということを意識させられれば、「効果的な描写」や「交渉」を目的とした活動への布石となるであろう。

(3) 寓話を用いたメッセージ作成活動 [資料2]

150語程度の短い寓話を読ませ、「教訓」を導けるように活動を展開する。筆者の意図を読みとり、また意見を

英語で表現するための練習の機会となる。本実践では、インプット物語を利用したが、寓話であるので、シンプルに作者の「メッセージ」ができるため、英語での内容理解・表現活動を含めたシンプルな活動を、短時間で行うことができると考えた。また物語の場面、キャラクター(登場する動物・植物)は身近なもので理解は容易であるが、生徒の多くは元の本(翻訳本)を読んでいないため、未知語の推測練習にもなった。

メッセージのまとめ方は、表現形式面から3つに分類した。1つは「ことわざ型」で、現在時制で記述する(資料2での例: "Intelligence saves your life. ")。2つめは「意見型」で、形容詞を利用する(例: "It is important to do small things to achieve a big goal. ")。3つめは「助言型」で、助動詞を利用する(例: "You shouldn't give up soon. ")。

3. 教科書の題材を利用した統合的な言語活動の展開 [資料3] ~ [資料6]

教科書の題材を理解し、表現活動につなげるために、3つの目的をもって活動を展開することとする。まず第一段階では、「あらすじ」をつかむことを目的に主に「読むこと」「書くこと」を統合した英問英答活動を行う。口頭での英語でのやりとりも含まれるため、「話すこと」「聞くこと」に関わる技能も限定的なレベルではあるが、総合的に伸ばすことを狙う。最初に、話の場面設定を理解する活動(①)を行い、次に話の中の出来事を順序立てて理解し、またその場その場で登場人物の気持ちを確認する(②)。最後にこの話にこめた筆者のメッセージの理解を英語で表現する活動(③)へつなげる。②と③の活動は、既述の帯活動とも関連させて単元計画中に展開している。

4. 単元計画 題材 Reading 1: Fast Food CROWN English Series I (2007) 三省堂 ☆2011年11月実施。

4. 1. 単元について

(1) 題材観

この題材は、星新一の短編集に収録されている作品の翻訳で、登場人物の行動に、新しい科学技術を無批判に受け入れてしまいがちなところや、欲に目がくらむと冷静な判断ができなくなっている様子が描かれている。その理解を通じ、メッセージの読み取りや意見の交換を行い、総合的に技能を高めるのに適した題材と考える。

(2) 指導観

語彙・文法事項は、既習のものがほとんどで、本文を繰り返し読ませることで定着を図る。作者のメッセージを、正確かつ根拠をもって読みとれるよう、概要把握活動や、要約文作成活動を展開する。要約の作成にあたっては、複数回書き直しをさせ、グループ学習のメリットを活かしつつ、質を高めていく。

4. 2. 単元の主な目標

(1) 読後の感想を書く。 (2) 文章の概要をまとめ、筆者の主張を理解できる。

なお、本実践では第一段階の「仕上げ」として、3人1組のグループ活動による暗唱の発表・静聴活動を行った。役割分担(ナレーション・Mr. R・The Man)をし、話の前半を担当するチームと、後半を担当するチームを割り当てて発表させ、また合計6回、通しで本文を聞かせた。

第二段階では、英語による「要約文」の作成を目的に活動を行う。まず場面をどこで分けるかを生徒に考えさせ、それから要約させる方法が考えられる。当実践では、時間短縮のため、あらかじめどこで区切るかは提示し、各部分を1~2文で要約するよう促した。英語で要約させ、「書くこと」的要素の強い活動とした。

どの情報が重要かについては、第一段階でまとめた「筆者のメッセージ」を伝えるために必要かどうかを判断基準とした。また、どの人物の立場で振り返らせるかによって、要約文の内容が変わるものである。読解→要約と、直線的に生徒の理解が深まるわけではなく、例えば、第一段階でまとめた「筆者のメッセージ」もその時点での生徒の作った「仮説」であって、読みを深めるにつれて異論が出る場合も十分考えられる。ペア活動・グループ活動・クラスでのディスカッションを経て、何度も読む中で、要約文とメッセージ文の間に意識の往復があつて、さらに情報の取捨選択や仮説の再構築をしていく必要が意識されることになると予想される(資料3~5)。

第三段階では、物語の登場人物へ英語で手紙を書く活動を行う。これは前段階までで確認した、筆者から読者へのメッセージを踏まえて行う必要があるため、必然的に「読むこと」と「書くこと」が有機的に結びつくこととなる。個人的な感想やつぶやきを英語で表現するだけにとどめないよう、留意させたい(資料6)。

4. 3. 単元の評価規準

- ア 関心・意欲・態度 ①積極的に英語で自分の考えを表現しようとしている。
- イ 表現の能力 ①自分の意見や考えを英語で述べることができる。
- ウ 理解の能力 ①文章の概要が把握できる。
②書き手の主張を理解することができる。
- エ 知識・理解 ①知覚動詞を用いた状況の説明を理解している。
②関係代名詞を用いた事物の説明を理解している。

4. 4 単元計画 (全7時間)

時間	ねらい	学習活動 ☆は帯活動	本小論の記述との関連
1 時間目	背景知識の活性化 サブスキルの育成 Pre-reading 活動	☆ガーデニングに関わる行動描写① ☆1分間トーク ☆あらすじの説明① ☆メッセージの読解・作成① 本文に出てくる語彙の確認	2. (2) [準2級] 2. (1) 2. (2) [2級] 2. (3) (資料1) (資料省略)
2 時間目	サブスキルの育成 Pre-reading 活動 Reading 活動	☆行動描写② ☆メッセージの読解・作成② 本文に出てくる文法項目の復習 (助動詞 + have + 過去分詞) 英問英答 物語の展開の概要把握	2. (2) [準2級] 2. (3) (資料2) (資料省略) 3. (資料省略)
3 時間目	暗唱	暗唱の発表・静聴	3.
4 時間目	サブスキルの育成 Reading 活動	☆メッセージの読解・作成③ 要約作成 (1) 情報の取捨選択・圧縮	2. (3) (資料2) 3. (資料省略)
5 時間目	サブスキルの育成 Reading 活動 同	☆あらすじの説明② ☆メッセージの読解・作成④ 要約作成 (2) 最後の展開を踏まえ情報の再精選 "Fast Food"のメッセージの読み取り	2. (2) [2級] 2. (3) (資料2) 3. (資料3) 3. (資料4)
6 時間目	サブスキルの育成 Reading 活動 Post-reading 活動	☆あらすじの説明③ 要約作成 (3) メッセージをふまえた書き直し 手紙作成 登場人物への手紙を書く	2. (2) センター試験 3. (資料5) 4. (資料6)

5. おわりに

帯活動で計画的にスキルを伸ばした生徒が、教科書をベースにした技能統合型活動で生き活きと力をつけていくことは、これからの英語授業では当たり前の光景となっていくことであろう。さて、新学習指導要領下では、決して新しいタイプの活動というわけではないのに、統合型の活動が強調されている。私見ではあるが、目標に準拠した評価のあり方が模索される中で、評価の際、技能別に説明可能な学習成果を求める傾向が強まってしまったのではないかと想像する。指導と評価は一体であるべきだが、すべてを評価する、とか、評価できることだけをアウトプットさせるという方針に陥らないように留意すべきである。

新学習指導要領下ではさらに、原則として英語で授業

が行われる。インプット・アウトプットは当然どちらも英語で行う割合を増やしていくことが求められており、統合型の活動が増えていくのは当然だと考えられる。生徒の発話を増やす手段として、物語を読んだ後の活動に、登場人物に手紙を書く活動や、登場人物の立場で日記を書く活動を、高校生にもどんどん取り組ませたい。これらの活動は、想像の世界の非現実的な活動という面もあるが、文脈を与えられた中で発言するロールプレイと共通の要素が多く、生徒が表現の能力を伸ばせる、実際の活動だと考えられる。

参考文献

- 金谷憲 (2012) 『高校英語教科書を2度使う！ー山形スピークアウト方式』アルク
- 樫葉みつ子 (2008) 『1分間チャット&スピーチ・ミニ

ダイバート 28』明治図書

松浦伸和 (2011) 「習得・活用を目指す英語授業の考え方とその設計」『研究紀要第 40 号 - 習得・活用・探求型学力の育成と評価の理論Ⅱ』公益財団法人・日本教材文化研究 財団

文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』開隆堂

西巖弘 (2012) 『ワードカウンターを活用した驚異のス

ピーキング活動』明治図書

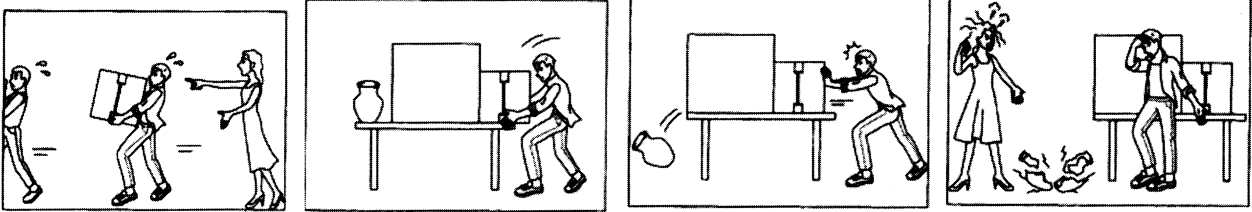
千菊基司 (2011) 「活用力を高める授業の実際-対話の要約を通じた、「活用力」の育成」『研究紀要第 40 号- 習得・活用・探求型学力の育成と評価の理論Ⅱ』公益財団法人・日本教材文化研究財団

山岡大基 (2013) 『『帯活動』と『モジュール』による授業構成-学力の 3 要素を計画的 に育てる』『中等教育研究紀要第 59 号』広島大学附属中・高等学校

資料 1 Story-telling 活動用資料 (教師用) ※大学入試センター試験(2009 年度)より

Story-telling

※元の資料は縦に 4 コマ並んでいた。



The Johnsons were busy moving. One of the helpers was (carrying) a box. He felt tired, so he put it on the table with another large box. But he didn't (notice) that there was a vase sitting (behind) that box. When he (pushed) the box further onto the table, the vase fell and broke on the floor. Mrs. Johnson got very angry that her favorite vase (had)(been)(broken). ※ () 内は空欄で提示し、生徒に考えさせる。

<Mrs. Johnson's diary>

生徒解答例) I am very sad. The vase was very important. My mother bought it for me when we got married. How I should explain it to her...

<The "helper's" diary>

生徒解答例 1) I was stupid. I broke a vase at Johnson's. Why didn't I checked if there was nothing behind the box before I pushed...

生徒解答例 2) I can't understand why Mrs. Johnson got so angry. I was wrong, and I broke it, but still... Maybe that was something very important to her.

資料 2 寓話教材例 ☆波線部は未知語のまま授業展開。 ☆(), < >, << >>部分は空欄で提示する。

Once there was a crow. He was very thirsty, so he was looking for water.

Then he happened to see a pitcher under a tree. He flew to it and looked in. There was a little water in it, but he couldn't reach the water.

"I want to drink that water," said he to himself. "How can I drink it?" He looked around. He saw small (stone)s. So he flew to them and took one small (stone) and < dropped > it into the pitcher. Then he carried another small one, and < dropped > it into the pitcher. He went to the (stone)s and carried one (stone) every time.

The water rose higher and higher. At last it came to the << top >> of the pitcher. And now he could drink the water. ※ The message (s) of this story: "Intelligence saves your life!"

資料 3 以下の資料を用い、グループで話し合わせて情報の削除 (二重線) や追加 (ゴシック体) を行わせた。

An outline of "Fast Food"

A rich man called Mr. R was working in his garden.

(A) A stranger visited Mr. R. (B) Mr. R thought the man was selling gardening tools at first.

- (C) The man showed Mr. R powder which help vegetables grow faster.
 (D) Mr. R didn't believe him at first. (E) The man showed Mr. R how to use the powder.
~~(F) Mr. R still didn't believe it was true.~~ (G) He was surprised to see the shoots grow fast.
 (H) The man explained ordinary seeds would grow faster with the powder.
 They began to bear fruits only within three hours.
 (I) Mr. R was surprised to have learned that the fruits he could get fast were delicious.
 He ate a lot of vegetables. (J) He also learned that he could use this powder to grow other plants.
 (K) He started thinking about getting money with the powder.
 (L) The man also wanted to get money by selling the powder, so they soon reached an agreement
 and Mr. R paid a lot of money. He was very happy. (M) After the man left, Mr. R felt hungry.
 (N) He didn't understand why he felt hungry after he ate so much. He saw the plants dying quickly.
 (O) He finally realized that he had been deceived. ※実際のワークシートは、行間を大きくとって作成した。

資料4 The List of Messages (生徒から出された英文の一覧：授業での検討前)

- #1 It is dangerous to believe a person whom you don't know.
 We sometimes have to think carefully about what others tell you.
 #2 After we try to make something easy, we will have to do it with difficulty after all.
 If you do things too faster than ordinary, you can't do them well.
 #3 You should be careful about both good and bad points about things before you make a big decision
 ... because there is no things that are too good only for you.
 People who look at only good points will fail. / We must make a decision after we ask enough questions.

資料5 資料4のうちどのメッセージが強いのかを考えさせるための発問一覧

◎◎ Why was he deceived so easily into making an agreement?

- (1) Did he believe what the man said at first? (2) Was the powder attractive? Why?
 (3) Why did he make the decision soon? (4) Why is "the rich man" so important information in the outline?

資料6 登場人物への手紙：生徒作品（訂正無し）

Letters to "the man"

- 1) I think you are very clever. You chose Mr. R, a very rich, naive man for your customer. That was good.
 Your presentation was excellent! The most important point of your presentation was that you didn't tell a lie
 to him. It was true that plants grow up quickly because of the powder, so Mr. R believed you. If I had been
 Mr. R, I would also have believed you. But I want to tell an important thing to you. Don't forget that if you
 do bad things, they will return to you.
 2) How many people have you deceived others into buying the powder as you deceived Mr. R? And how
 many times will you do this after this? Maybe you got a lot of money, but money that you got that way
 shouldn't be saved. Don't steal money that people had got by working hard. The thing that you did to
 others will return to you.

Letters to "Mr. R"

- 3) I think that gardening is exciting to take care of flowers or vegetables myself. The powder is our enemy to
 break our "hobby." We mustn't buy or use it. But you are so honest and your desire of getting money is
 important and you bought the powder. You should not forget this loss and work hard everyday.
 4) I think you are very sad now. You should have asked the man's phone number. You are, I think, a
 gentleman, for you believed him without a doubt at all. It is your good point. But you have to know that it
 is not easy to get a lot of money. You can do that only by working hard. You have to grow many fruits and
 vegetables again without super powder.